

## 〈解答〉

- ① 1 才  
2 家族と無関係に宗教性に触れている人  
3 ところが  
4 工

配点 ① 1、2は各2点、他は各3点 10点満点

## 〈解説〉

- ① 1 前の空欄①の前後では、5、6行目『便利に快適にホイホイ生きて、ついでにホイホイ死ぬのでは芸がなさすぎる』、『死が近づいてくると、これまでの生き方が死の準備に対しては逆効果であることに気づいたりする』と並列的に事例が列挙されている。また後の空欄①も、12、13行目『宗教性に触れることができる』事例として『家族を通じてこそ』、『それよつてのみ』が並列して挙げられているので、空欄①には才「あるいは」が入るとわかる。

- 2 傍線部②の「そういう世界に開かれている人」とは、15～17行目『人間の生活において、極めて不可解で、われわれのたましいを震撼させるような事象に対して、たじろぐことなくつき合っていこうとする態度』という意味での「宗教性」を持つ人を指す。そうした人は、10行目『家族が宗教性に対する入口となることが多い』現代においても、18行目『別に家族のことを手がかりとする必要もない』人であり、14行目『家族と無関係に宗教性に触れている人』といえる。

- 3 20行目『昔は人間が日常的に生きることさえ大変だった』ので、21行目『家族が協力しないと』いけなかったのに対し、22～24行目『ところが、現在では、経済的に豊かになり、テクノロジーのおかげで日常生活が快適で便利になってきたので、家族の援助などなしですませられる』ので、家族がしがらみとして意識されるようになったのである。

- 4 筆者は第三段落で昔と今の家族を比較したり、第四段落で他を理解することの難しさについて述べたりして、1行目『人間存在に必然的に伴う矛盾の重要性』としての2行目『家族の意味』を様々な観点から考察している。ここでいう「家族」は、矛盾を通じて自由や死生について考えることで「自己」を理解するための存在を指すので、その重要性について述べた工が正解となる。ちなみに、夫婦関係や親子関係の例は27行目『親と子、夫と妻の間で互いにほんとうに理解するのがいかに難しいか』の説明なので、アは適当ではない。「今後の課題」については述べられていないので、イは適当でない。「かつてと現在の生活環境を比較」しているのは、「『家族』の理想と現実の違い」を説明するためではないので、ウは適当ではない。「愛情とは何か」についての説明はないので、オは適当ではない。